

25. コンクリート混合場の操作状況

ウオセクリーター及ミキサー

ウオセクリーターは、水とセメントのみを混合するものにして、本写真のものはコンクリート10バッチ(約 7.0m^3)分を練り得るもので、細粗骨材は別に計量投入が出来得る様にし、ミキサーへペースト、骨材を同時に投入し、材料投入時間を節約するものである。

ミキサーは28才練りにして廻轉数は1分20回である。

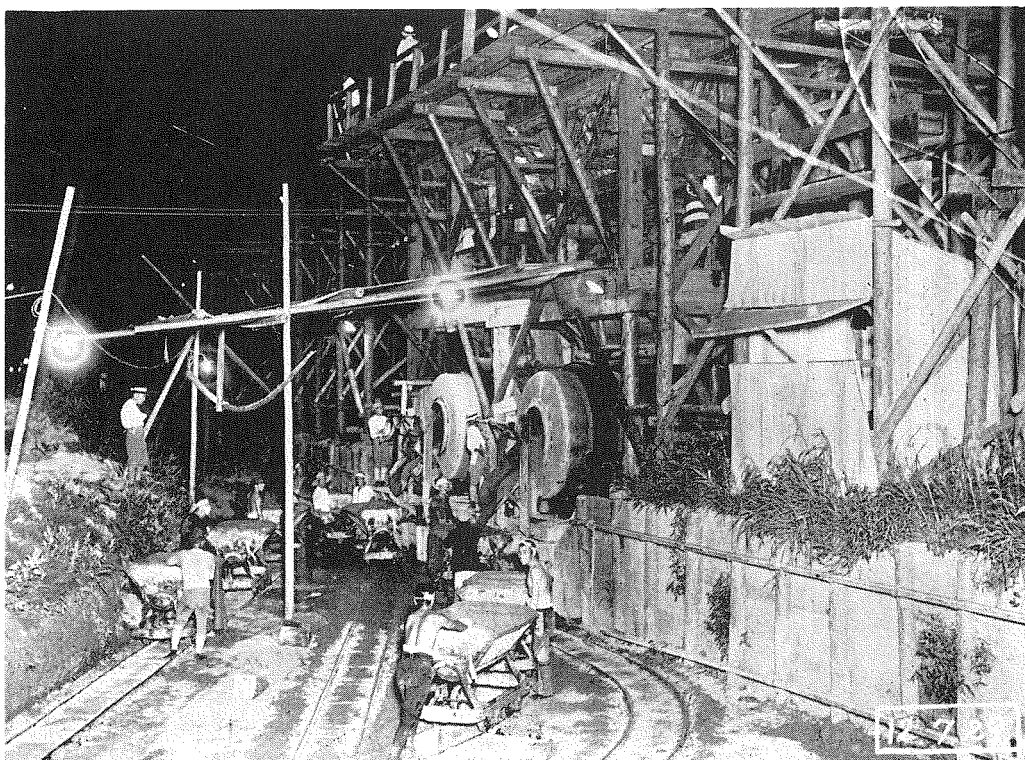
本水門、閘門共ウオーカビリテーは、スランプ試験により普通5cm~20cm程度で、水セメント比では55%~65%程度であつた。

設計強度(コンクリート28日應壓強度)は $45\text{kg}/\text{cm}^2$ を使用したから

コンクリート強度(28日)は水比別に平均値を求めた結果は次の如し。

水比55%	—	250 kg/cm^2
同 60%	—	210 同
同 65%	—	190 同

尙工事の迅速性により冬期コンクリート工事を強行したが、コンクリート強度を増加する目的で、セメント量5%程度を増加し、上記強度に近接せしめた。



26. コンクリート混合の
夜間作業状況。

エンドレスケーブル

コンクリートを y.p.+1.00m
よりy.p.+7.50mの高に勾配1/10
を以つて引揚げたが、その速度0.
5m/secで充分コンクリート工事に
貢献した。

27. コンクリートの鍋トロ引揚
状況。

